

# ほうさ 第17号

1984年3月 名古屋市蓬左文庫 Nagoyashi Hôsabunko

# 展示图』り

## 目でみる 本の歴史展

3.3 (土) ~3.25 (日)

文明の進歩と発展のために書籍の果たしてきた――また果たしつつある役目の重大さについては、いまさらいうまでもありません。出版文化が高度に普及した現代においては、各種の書籍が巷にあふれ、その選択に迷うほどですが、むかし――明治以前には本の種類も数量も少なく、印刷による版本といえども、ほとんど手づくりでしたから、およそ本と名の付くものはそれぞれに貴重で、その度合は、時代が古くなるほど増大するのが通例です。そこで、日本の書籍はどのようにして進展してきたか、その経路すなわち「本の歴史」を古書によってたどってみようというのが、今回の展示の目的です。何分、非常に大きなテーマを、せまい会場で、できるだけ圧縮してお目にかけるわけですから、完全を期することはとうてい不可能で、ごく大筋にすぎないことはやむをえません。

さて、現存する最古の書籍らしい 書籍といえば、正倉院文書は別とし て、ほとんど漢籍や仏典です。著作 物としては「古事記」「日本書紀」「万 葉集」などがありますが、それらの 原本は早く失なわれ、後世の写本に よって伝えられるにすぎません。こ れらはすべて漢字・漢文で記され、 和文の物語や和歌の類が現れるのは、 かな文字が発明された平安時代から になります。主要な作品としては「竹





竹 取 物 語(室町時代写)

取」「伊勢」「源氏」などの物語類、「古今集」などの歌集のほか、随筆に「枕草子」、紀行に「土佐日記」などが出ましたが、学問の基本は漢学で、「続日本紀」のような史料や「御堂関白記」など公卿らの日記類は漢文で記され、漢詩もまた盛んで、菅原道真はその代表的作家です。平安も末期に入ると印刷術も興りますが、仏典や仏画に限られ、その他はやはり写本のかたちで伝えられ、その数も少なく、とくに著者の自筆本が残存する例はきわめてまれといえます。なお、この時代には、文学方面において宮廷女性らが大いに活躍し、多くの名作をのこしたことはご承知の通りであります。

次は貴族に代わり、新興の武家階級が封建制を布くに及んで、質実剛健な武家文化が興り、文学では「保元・平治」や「源平盛衰記」などの軍記物語、仏教でも禅宗や浄土真宗・日蓮宗などが新たに

弘通して「沙石集」などの仏教説話集が現われ、これらと並んで貴族や僧侶らによる古典の研究がさかんとなり、また禅の影響下に五山文学(漢詩文)が興隆し、連歌・茶湯・能楽などの新しい芸能や「お伽草子」などの絵入本が生まれるなど、室町時代の特色を示します。これより先、鎌倉中期に北条実時が金沢文庫(現横浜市)を創設して和漢の良書を集め、その蔵書が現在も諸所に残存して貴重な資料となっていることは見落せません。なお、この時期には木版印刷もすこしずつ進み、仏典以外にも詩文集や儒学関係の本、辞書などが次第に刊行されます。



沙 石 集(江戸初期の古活字版)

最後に江戸時代に入ると、活字版などの新しい印刷術がかなり普及し、写本とならんで書籍の数も 種類もいちじるしく増加し、平和の永続と相まって、学術・文化は空前の進展をとげます。また、洋 学の伝来にともなって蘭書の訳述や復刻本なども出てきますから、以上のすべてにわたる展示には、 広い会場を必要としますので、今回は60種ほどに限定をよぎなくされました。なお本の形態や装丁に も時代による変化がみられ、古くは巻子本(巻き物)、次に折本、大和綴、胡蝶装(列葉・粘葉・綴葉)、 袋綴、あるいは枡形本・枕本などいろいろな様式がありますので、あわせてご注目ください。





解 体 新 書(江戸中期の木版)

#### (備考)

- 1. 出品の書籍はできるだけ古写本・古版本を用いました。(ただし、とくに貴重なものは、複製または影写本を代用)
- 2. 書籍は原則として国書(和書)に限りましたが、「新修本草」(漢籍)など、一、二の例外もあります。
- 3. 展示の順序は、一応分類の上、ほぼ年代順としました。
- 4. 書籍の写・刊年代は、概観に重きをおいて元号は省略し、奈良・平安・鎌倉・室町・江戸(初・中・末期)のような記載方法をとりました。
- 5. 装訂や形態は、特殊なもののみを挙げ、最も一般的 な和装本(袋綴)は注記を略しました。

#### 「目でみる本の歴史展」出 品 目 録

29. 太平記 I. 古代 (奈良~平安時代の写本と主要著書) 江戸中期刊 40卷21冊 1. 新修本草 唐·李勣等撰 30. 本朝尊卑分脈 洞院公定編 江戸初期写 奈良時代写(影写本) 卷子本 1軸 2. 古事記 太安万侶編 31. 連歌延德抄 猪苗代兼載 室町時代写(自筆本) 南北朝時代写(大須真福寺本・国宝) 大和綴 1冊 複製本 粘葉装 3巻3帖 32. 庭訓往来抄 室町時代写 1冊 33. 義経記 3. 日本書紀 舎人親王等編 江戸初期刊 30巻15冊 江戸初期刊 8巻8冊 4. 出雲国風土記 江戸初期写 胡蝶装 1冊 34. 謡曲(名所三百首紙背) 室町末期写 1冊 5. 万葉集 平安時代写(元曆本・国宝) 35. 利休百会茶会記 江戸初期写 1冊 複製本 胡蝶装 15巻15冊 III. 近世(江戸時代の写本および版本と主要著書) 6. 三十六人家集 いせ・つらゆき下 36. 信長記 小瀬甫庵 江戸初期刊 平安時代写(西本願寺本・国宝)複製本 15巻(有欠)5冊 37. 甲陽軍鑑 江戸初期刊 20巻20冊 胡蝶装 2冊 7. 続日本紀 江戸初期写(角倉本) 40巻13冊 38. 羅山林先生全集 林道春 8. 令義解 清原夏野等編 江戸初期刊 10巻11冊 文集76巻詩集77巻附5巻50冊 9. 倭名類聚鈔 源順編 江戸初期刊(古活字版) 39. 大日本史 徳川光圀等編 江戸中期写 70冊 40. 政 談 荻生徂徠 江戸末期写 4巻4冊 20巻10冊 10. 菅家文草 菅原道真 江戸初期写(角倉本) 41. 源氏物語湖月抄 北村季吟 江戸中期刊 12巻 5 冊 54巻附6巻60冊 11. 古今和歌集 紀貫之等編 室町時代写 42. おくの細道 松尾芭蕉 胡蝶装 1冊 江戸中期写(複製本) 1冊 43. 条好色一代男 井原西鶴 12. 和漢朗詠集 藤原公任編 室町時代写 胡蝶装 2巻2冊 江戸中期刊(複製本) 8冊 13. 竹取物語 室町時代写 1冊 44. 農業全書 宮崎安貞 江戸中期刊 10巻1冊 14. 伊勢物語 室町時代写 胡蝶装 1冊 45. 養生訓 貝原益軒 江戸中期刊 8巻4冊 15. 源氏物語 竹河 鎌倉時代写 46. 折たく柴の記 新井白石 江戸中期写 3巻3冊 胡蝶装(枡型本)1冊 47. 塩 尻 天野信景 江戸末期写 129巻(有欠)67冊 16. 枕草子 清少納言 江戸初期刊(後印) 4冊 48. 解体新書 杉田玄白等訳 江戸中期刊 17. 大 鏡(世継物語) 室町時代写 3冊 4巻図1巻5冊 18. 今昔物語 江戸初期写 31卷(有欠)28冊 49. 三国通覧図説 林子平 江戸中期刊 II. 中世 1冊附図5枚 (鎌倉~室町時代の写本および版本と主要著書) 50. 古事記伝 本居宣長 江戸末期刊 19. 唐 鏡 藤原茂範 鎌倉時代写 胡蝶装 1冊 44巻目3巻附1巻48冊 20. 大般若波羅密多経 卷247 51. 書紀集解 河村秀根 江戸末期刊 30巻20冊 鎌倉時代刊(春日版) 巻子本 1軸 附・版木 1 面 52. 日本外史 頼山陽 江戸末期刊 22巻22冊 21. 方丈記 鴨長明 江戸初期写 胡蝶装 1冊 22. 東 鏡(吾妻鑑) 江戸初期刊 53. 東海道名所図会 秋里籬島 江戸末期刊 6巻6冊 54. 日本山海名産図会 蔀徳基 江戸末期刊 5巻5冊 52巻(有欠)50冊 23. 源平盛衰記 江戸初期刊 48巻目1巻25冊24. 沙石集 釈無住 江戸初期刊(古活字版) 55. 南総里見八犬伝 滝沢馬琴 江戸末期刊 106冊 56. 春色梅児營美 為永春水 江戸末期刊 12巻 4 冊 10巻(有欠)8冊 57. 東海道中膝栗毛 十返舎一九 江戸末期刊 25. 新古今和歌集 藤原定家等編 室町時代写 20卷2冊 58. 泰西本草名疏 伊藤圭介訳 江戸末期刊 26. 元亨釈書 釈師練編 江戸初期刊(古活字版) 2 巻附 2 巻 3 冊 30巻10冊 59. 和蘭字彙(長崎ハルマ) 桂川甫周等編 江戸末期刊 13冊

室町時代写

28. 增 鏡

3 冊 60. 西洋事情 福沢諭吉 江戸末期~明治初期刊 10冊

## 日本文学史略年表

	主	要 著 書	参 考 事 項	書誌関係事項
大和	7世紀初 712	三経義疏 古事記		610 朝鮮から製紙法伝来
奈良	720 733 751	日本書紀 出雲国風土記 懐風藻 万葉集	奈良~平安前期 漢詩文の隆盛	764 百万塔陀羅尼の刊行 (現在確認できる最古 の印刷物)
	797	続日本紀	仮名文字の確立	
平	10 世 紀	菅家文草 古今和歌集 土佐 中記 竹取物語 伊勢物語 大和物語		
	11 世 紀	後撰和歌集 蜻蛉草子 枕草子 治遺氏動脈集 源氏動脉集 和泉式部日	和歌・物語・日記文学の隆盛	平安後期~室町末期
安	12世紀	更級 日記 栄花物語 今 音物語集 大鏡 和歌集 壬 和歌集 山家集	田楽流行 歴史物語おこる	春日版の刊行(仏典中心)
	13 世 紀	新古今和歌集 方丈記 金槐和歌集 保元·平治物語	内裏中心に歌合盛ん 軍記物語おこる 都に猿楽流行	鎌倉〜江戸初期 高野版の刊行(仏典中心)
鎌		愚管抄 源平盛衰記 平家物語		鎌倉中期~室町末期 五山版の刊行
倉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14 世 紀	十六夜日記 沙石集 徒然草 神皇正統記	説話文学の隆盛	(仏典・文芸・史伝等)
室		英玖波集 河海抄 太平記	連歌の隆盛	
町	15 世 紀	增鏡 風姿花伝 狂雲集	謡曲・狂言の流行 生花・茶の湯の流行	1500 W. B. W. B. W. W. C. H.
	16 世紀	新撰莬玖波集 新撰犬莬玖波集	TEAC - NOVENING VIOLET	1590 洋式活版術伝来 1591~1612 きりしたん 版の刊行
江	1 6 5 7 1 6 8 2 1 6 8 8	大日本史の編集開始 好色一代男 日本永代蔵	1630 キリスト教関係の書物の 輸入禁止	16世紀末 文禄・慶長の役によ り朝鮮から活字版伝 来。これ以降17世紀 初めにかけて古活字
	1 6 9 1 1 7 0 2 1 7 0 3	猿蓑 奥の細道 曽根崎心中	浮世草子盛ん 1720 キリスト教関係以外の洋 書の輸入認められる	版の刊行盛ん。(慶長 勅版・伏見版・駿河 版等)
戸	1 7 4 8 1 7 6 5 1 7 7 5 1 7 9 0 1 8 0 2	仮名手本忠臣蔵 誹風柳多留 金々先生栄花夢 古事記伝 東海道中膝栗毛	酒落本・黄表紙盛ん 川柳盛ん 人情本盛ん	17世紀初 嵯峨本の刊行 17世紀中頃より、書肆の出版が 盛んになり、印刷も整版主体と なる。
	1 8 0 9 1 8 2 9 1 8 3 2	浮世風呂 偐紫田舎源氏 春色梅児誉美	滑稽本盛ん 人情本盛ん	

### 蓬左文庫の蔵書印

その13. 「南葵文庫」と蔵書印

織茂三郎

紀州家の「南葵文庫」と水戸家の「彰考館文庫」 は、「駿河御譲本」を母体とする意味で本文庫とは姉 妹関係にある。彰考館の方は水戸市に現存し、財団 法人水府明徳会の管理下にあるので今はふれない。 南葵文庫の名称は、紀州が南海道に属するのと家紋 の葵を結びつけて成ったと思われ、わかりやすい佳 名といえる。この文庫の蔵書は、紀州家の居城和歌

山や江戸・赤坂(現港区)の藩邸内に分置されていたが、明治維新前後、かなり散逸ないし移動し、一部は神宮文庫や和歌山県師範学校などに入った。のちに東京・麻布・飯倉(現港区)の紀州徳川家に集められ、同邸内の文庫に収蔵・公開された。同文庫は明治31年起工、増築をかさねて41年に竣工したルネサンス風の建てもので、書庫などを合せて延べ約1,400㎡、閲覧室、特別閲覧室、展示室、調査室、整理室、応接室、製本室、食堂などを備え、職員も主幹のほか、掌書(司書)・事務職・整本師などをふくめ13名とあって、当時における紀州家の財力をしのばせる。同文庫は竣工後まもなく開館、蔵書数は約70,000点で、目録もほぼ同時に刊行された。また、文庫側と利用者や学識経験者との交流をはかるため、定期的な懇談会や講演会等が開かれ、サロン的な雰囲気を保つことにも配慮するなど、この種の文庫としては最も早く整備が進むと同時に、模範的な運営の実を示したとみられる。ちなみに、紀州家の当主は徳川頼倫氏で、おなじく紀州系の田安家から十二世を嗣いだ人である。なお、紀州家の初世頼宣(南竜公)は、尾張家の義直の弟で、元和5年(1619)和歌山に赴任するまでは駿府に在住したため、駿河御譲本や同じく御分物御道具のほか、家康が駿河版刊行に使用した日本最初の金属活字(重要文化財・凸版印刷現蔵)

およそ10万個などが紀州家に持ち去られた。この 南葵文庫は、その後、廃館となったが、現在は東 京大学総合図書館内にその名称とおもかげをとど めており、ほかに南葵音楽文庫もある。

さて、南葵文庫の蔵書印は、本文庫では明治45年に寄贈された駿河版「群書治要」にみられる。印材は古渡更紗(こわたりさらさ)石すなわち中国産大理石の一種で、たて・よこ共に60mmの方形、四隅に葵、周辺に「紀伊徳川」の四字が配されている。ほかにも2~3種の南葵文庫印、古くは藩校の学習館あるいは明教館・古学館など江戸や松坂(現松阪市)にあった学問所の印もあったといわれる。 (蓬左文庫調査研究員)



「南葵文庫」印

## 出版物一覧

名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録(S.50年刊) 3.500円 名古屋叢書三編第12巻(S.56年刊) 3.000円 同 第8巻(S.57年刊) 名古屋市蓬左文庫国書分類目録(S.51年刊) 4,000円 3,000円 名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録(同 ) 2,500円 同 第16巻 尾崎久弥コレクション目録第一~三集 一横井也有全集 上一(同) 3,000円 同 第19巻 (S.52~55年刊) 各 1,500円 名古屋叢書(正編)索引・総目録(S.53年刊) 2,000円 一物品識名他三編—(同) 3,000円 名古屋叢書続編 索引(S.47年刊) 700円 第17巻 名古屋叢書続編総目録(S.44年刊) 一横井也有全集 中—(S.58年刊) 400円 3,000円 善本解題図録第一~三集(S.55年再版) 各 300円 第4巻 同 日本の古典〈蓬左文庫図録〉(S.52年刊) 200円 一士林泝洄続編一 (S.59年刊) 3,000円 堀田文庫蔵書目録(S.58年刊) 蓬左文庫·源氏物語図録(S.53年刊) 300円 500円 蓬左文庫図録( 同 ) 1,500円 蓬左文庫所蔵古地図複製(S55~57年刊) 蓬左文庫絵葉書〈8枚組〉(同) 300円 No. 1 ~No.11 各 1,800円

★以上の出版物は、本文庫事務室において頒布しています。郵送希望の方は郵送料が必要ですので、お問い合わせ下さい。(ただし、古地図複製は郵送不可)

#### ▷ ▷ ○ 利 用 ご 案 内 □ □ □

▷開館時間 午前9時30分~午後5時

▶休 館 日 毎月曜日·第3金曜日(館内整理日)

祝日(日曜に重なる場合は日曜開館、月・火休館)

年末年始(12月28日~1月4日)

▶閲 館内に限り、館外貸し出しはいたしません

(閲覧料) 普通図書 無料

重要図書 有料(1部350円)

(特別展を除き入場無料)

▶複写サービス 普通図書のうち、保存上影響のない

ものについて複写サービスを行いま

す。その他、マイクロフィルムの利

用、写真撮影の申請を受け付けます

ので、ご来庫の上、ご相談下さい。

#### 名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市東区徳川町1001番地

**☎**(052)935−2173

(市バス 新出来町 北 100 m 山 口 町 東 500 m)



「蓬左」第17号 ☆昭和59年3月3日発行 ☆編集・発行:名古屋市蓬左文庫(東区徳川町1001番地)

☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷:大同印刷株式会社(東区泉2-3-18)